

糖尿病で薬物治療中の高齢者の

無自覚性低血糖にご注意を！



無自覚性低血糖とは・・・

血糖が正常範囲より下がっても、発汗や手足のふるえといった低血糖症状が現れず、いきなり意識障害を起こすこと。



高齢者がインスリンや経口糖尿病治療薬を使って治療を行っている場合、低血糖を起こす可能性が高くなります。
また、無自覚性低血糖を起こしやすく、適切な対応ができないと認知症や心疾患、昏睡状態という生命の危機につながります。

- 起こしやすい人**
- ・糖尿病薬を使っている
 - ・糖尿病の治療歴が長い
 - ・低血糖を繰り返している
 - ・食事の量や時間が不規則
 - ・認知機能が低下している

- 起こしやすいのはいつ？**
- ・食事と食事の間（お腹が空いているとき）
 - ・夜間、早朝の空腹時



このような症状や行動は無自覚性低血糖かもしれません！！

急につじつまの合わない言動をとる 落ちつきがない



せん妄や意欲低下、まひや脱力などの症状は、実は低血糖かもしれません。

おなかがすいたと 訴えることが多くなった



発汗や動悸・手のふるえなど、一般的な低血糖症状が現れないことが多くなります。

ふらふらしている ろれつのがまわりが悪い



ふらふらする、動作がぎこちない、めまい、脱力感、ろれつ不良、目がかすむなどの症状を示すことがあります。

忘れっぽくなった なんとなく行動がおかしい



血糖値の低下によって、注意力の低下、記憶障害などの認知機能障害をきたすことがあります。

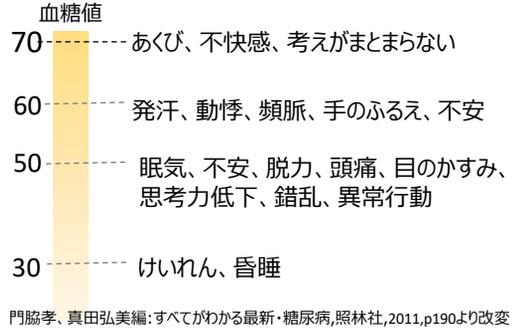
高齢者の低血糖症状は非典型的で、認知症などと間違われて対処が遅れてしまうことがあります。

「何となくいつもと違う」「最近おかしいな」と思ったら
自宅や介護施設で血糖測定ができる場合は測定してみるか
医師や看護師に相談して血糖測定などを検討してもらいましょう。
また、日頃から低血糖が疑われたときのルールを決めておくことをお勧めします。



高齢者の低血糖について

一般に、
血糖値が70mg/dL未満の場合を低血糖といい、
その程度によってさまざまな症状が現れます。



高齢者の低血糖の特徴

- 発汗、動悸、手のふるえなどの低血糖の症状が現れないことがあり、低血糖が見逃されやすく、対処が遅れがちになる
- 頭がくらくらする、身体がふらふらする、動作がぎこちない、めまい、脱力感、ろれつ不良、目がかすむなどの非典型的な低血糖症状を示すことが多い
- 注意力の低下、記憶障害などの認知機能障害をきたすことがある
- せん妄、錯乱、意欲低下などの精神症状や、片麻痺などの神経症状が低血糖の症状のこともある
- 血糖値が正常に回復した後も、認知機能障害が長引くことがある
- 高齢者の低血糖による異常行動は、認知症と間違われやすい

低血糖を起こす原因

- ・ くすりの種類や量を間違えた
- ・ 食事時間が遅れた、食事の量または炭水化物の量が少ない
- ・ 散歩など、いつもよりたくさんまたは長く運動（活動）をした
- ・ 飲酒した
- ・ 入浴など



低血糖時の対応例

